

平成30年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日	平成31年4月2日
研究・研修課題名	院内がん登録実務中級認定者研修
研究・研修組織名(所属)	院内がん登録委員会 島根大学医学部附属病院
研究・研修責任者名(所属)	鈴宮 淳司(先端がん治療センター長)
共同研究・研修実施者名(所属)	中林 愛恵(医療サービス課)

区分	<input type="checkbox"/> 学会発表、 <input type="checkbox"/> 論文掲載、 <input type="checkbox"/> 資格取得、 <input type="checkbox"/> 認定更新、 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input type="checkbox"/> 単位取得、 <input checked="" type="checkbox"/> その他の成果(該当なし)
該当者名(所属)	中林 愛恵(医療サービス課)
学会名(会期・場所、認定名等)	院内がん登録実務中級認定者研修(2018.8.22 東京都中央区)
演題名・認証交付先等	
取得日・認定期間等	

目的及び方法、成果の内容

① 目的

平成30年7月31日付健発0731第1号がん診療連携拠点病院等の整備指針で、専従の、国立がん研究センターが提供する研修で中級認定者の認定を受けている者を1名以上配置し、がん登録に係るマニュアルに習熟することとされています。

本研修会は、上記に該当する院内がん登録実務中級認定者を対象とした研修会で、今年度の研修は「UICC TNM 第8版に関する内容」をメインテーマにしています。2018年診断症例の院内がん登録からUICC TNM 第8版によるステージ分類が適用されました。前年度本院のシステム改修が終了し、これから2018年症例の登録がはじまります。

前年度の研修会では、UICC TNM 第8版の日本での適用について保留とされた部分がありました。胃食道接合部の定義、肝臓の所属リンパ節の定義、肺の0期の適用する組織型、前立腺のG分類の分化度への反映など保留とされた事項等について、本格的な登録をはじめるとに当たって国の方針を情報収集する必要があり、その情報を得ることが研修会に参加する目的です。

② 方法

下記の研修会を受講しました。

【主催】国立研究開発法人国立がん研究センター がん対策情報センター

【対象】院内がん登録実務中級認定者

【日時】平成30年8月22日(水)

【場所】国立がん研究センター

③ 成果

1、次の事柄について学びました。

- ・食道では胃食道接合部の範囲が変更になり、腫瘍の中心が2cm以内で食道に浸潤しているものは食道で分類することとなりました。しかし、日本のがん登録では今のところ採用せず、従来通り、医師が胃がんと診療録に記載していれば胃で分類し、食道がんと記載していれば食道で分類することになります。
- ・肝がんのT分類は大きく変更になりました。T1a, T1bに細分化され、最大径2cmでの基準が追加され、第7版では肝癌破裂がある場合はT4でしたが、第8版では考慮しなくなりました。N分類では領域リンパ節に下横隔リンパ節が追加になりました。
- ・肺の最大径の考え方が変更され、他の臓器のように原則として浸潤径で計測するようになりました。こ

れまでは肺の上皮内腺癌 Adenocarcinoma in Situ (AIS)を組織コード 8250/3 として、O 期としてい
ていましたが、2018 年症例からは組織コード 8140/2 として O 期と評価するようになりました。

- ・前立腺について、これまでは Gleason スコアを病理学的分化度 G1~3 とし、形態コード 6 桁目に反映さ
せていましたが、2018 年症例から、形態コードは一律 8140/39 で、付加因子の項目を新設して G1~5 と
評価することとなりました。

- ・中咽頭は p16 陰性か陽性かで、分類を変更するようになりました。p16 陰性はほぼ UICCTNM 第 7 版
と同様の分類ですが、p16 陽性は新規の分類です。

- ・原発不明の頭頸部癌という新しい分類ができました。組織学的に扁平上皮癌の転移が頸部リンパ節で確
認されたが、原発病巣が確認出来ない場合に適用します。この分類は原発が頭頸部癌と考える場合に適用
し、部位コードは C76、組織コード 8070/3 を使用します。原発が全く異なるところから頸部リンパ節に
転移してきたと考えられる場合は本分類を使用せず。部位コードは C80 を使用します。

- ・胃がんは、TNM 分類は第 7 版と同様ですが、病期決定が臨床病期と病理学的病期で異なるようになっ
たので、注意が必要です。

- ・虫垂の分類に腹膜偽粘液腫に進行することもある Low-grade Appendiceal Mucinous Neoplasm
(LAMN)が追加されました。しかし、組織コードが 8480/1 と性状不詳に該当するため、登録対象外となり
ます。浸潤している場合でも LAMN と診断されている症例は登録対象外です。腹膜偽粘液腫は登録対象
です。

- ・膵臓は T 分類が大きく変更になり、膵臓に限局するかどうかではなく、最大径で評価するようになりま
した。

- ・遠位胆管の T 分類が組織学的な浸潤の深さの数値で判定されるようになりました。取り扱い規約と定義
が異なっているので、情報収集の際に注意する必要があります。

- ・胸腺の上皮性腫瘍を対象として胸腺の分類が第 8 版から新設されました。WHO ブルックで胸腺腫
を悪性と考えようになり、UICC とがん登録もそれに合わせ、性状コード/3 をつけて登録対象とするこ
とになりました。ただし、医師の診断で良性 (/0) または境界悪性 (/1) の明示があれば登録対象外とな
ります。

2、本院は、都道府県がん診療拠点病院の指定を受けており、標準登録様式に基づく院内がん登録を実施
し、集計結果等を国立がん研究センター情報提供することが拠点病院整備指針の指定要件に明記されてい
ます。2018 年診断症例から UICCTNM 第 8 版に変更になりましたが、本研修会で講義を受けることがで
きたため、混乱無く登録することができました。

3、本院は県内の院内がん登録実施病院を含むがん登録実務者を対象に実務担当者研究会や島根県がん登
録研修会の企画・運営に関わっており、県内病院の実務者から質問が寄せられます。県内の院内がん登録
実施病院から UICCTNM 第 8 版について質問がありましたが、本研修会を受講したおかげで対応するこ
とができました。